

自然と生き物の色々な話

～へびのお話～

にほん しゅるい こんかい べんきょう
日本にはいろいろな種類のへびがいます。今回はへびについて勉強してみましょう。



からだ てあし も こきゅう おこな はい こきゅう おこなにくしょく
へびは、体に手足がなく、ウロコを持ち、エラ呼吸を行わず、肺で呼吸を行う肉食の
いもの ぜんたい ぶん ていど どく
生き物です。また、全体の4分1程度は毒へびです。

とくちょう にお かん きかん くち なか いちぶ やかん えもの
へびの特徴は、臭いを感じる器官が口の中にあることです。一部のへびは、夜間でも獲物を
み せきがいせん やくわり は きかん も
見つけることができる赤外線センサーの役割を果たす器官を持っています。

かいちゅう たいはん なかま
また、海中にすむウミへびも大半はへびの仲間です。

ふる しょくざい かんそうふんまつ かんぼうやく ひと かか
へびは古くから、食材として、また乾燥粉末にして漢方薬として人と関わってきました。
とりにく いがい ひと おお
へびは鶏肉のような味で、意外においしいという人が多いです。

ほか じんじゃ かみさま かみさま つか まつ あくま つか
その他にも、神社などで神様や、神様の使いとして祀られることもあれば、悪魔の使いとし
きら たい あつか ちいき じだい こと
て嫌われることもあり、へびに対する扱いは地域や時代によっても異なります。



にほん せいそく やく しゅるい うち ひょうごけん りくじょう
日本に生息しているヘビは約45種類、その内、兵庫県の陸上で

しゅるい
見られるヘビは8種類です。



有毒

ヤマカガシ(山楯蛇)

にほん さいきょう ぶく もつ お
 日本最強の毒を持つおとなしいヘビ。ただし、
 ぶくが けんし ではなく おくば
 毒牙は犬歯ではなく奥歯
 であるため、口の中に指
 でも入れない限り、滅多
 に毒牙に噛まれることは
 ない。



有毒

ニホンマムシ(日本蝮)

おんびょう な ぶく ヘビ。にほん の
 毒蛇による死者のほとん
 どはマムシの被害。じょう
 強壯の薬として酒に
 漬けたり、粉末にして飲む
 ことがある。背中せなかの五円
 玉ごえんのような模様が特徴。



シマヘビ(縞蛇)

なまえ とお からだ ほん しま
 名前の通り体に4本の縞
 模様があることが特徴。
 からだ まくろ
 体が真っ黒のカラスヘビ
 (おもて しやしん
 (表の写真)とよばれるシ
 マヘビもいる。田んぼや
 はたけ でよく見かける。
 むどく び み
 無毒。美味。



タカチホヘビ(高千穂蛇)

つるつるとした手触りと
 しんじゆ へのふしぎな ひかり
 真珠のような不思議な光
 を放つウロコが特徴的な
 ヘビ。むどく。
 無毒。



アオダイショウ(青大将)

にほん では もっと いっぱんてきに
 見られる日本最大のヘ
 ビ。むどく。つかまるとお尻
 の穴から臭い液を出す。
 あな くさ えまき だ
 脇腹のあたりには木を
 のぼ
 登るためのスパイク状の
 ウロコがある。



シロマダラ(白斑)

©Koolah

かっしょく からだ に 黒い 横縞が
 特徴。無毒。森の中にす
 む夜行性のヘビで、昼間
 には滅多に見かける事
 がない。



ジムグリ(地潜)

おな かのウロコが白黒でピ
 アノようになってい
 る事が特徴。地潜の名前
 の通り、地面や石のしたに
 もぐり 込んでい
 ることがとても多い。暑さ寒さに弱い。
 むどく
 無毒。



ヒバカリ(日量)

©W.CC

むかし 毒蛇と思われてお
 り、噛まれればその「日ば
 かり」の命と思われてい
 たことから名前がついた。
 じっさいは 無毒。お
 追いかける
 と攻撃してくる事もある。

